景気動向調査結果

この調査は、県内中小企業の景況・金融動向を把握するため、当協会の保証を利用されている企業の皆様のご協力により、四半期ごとにアンケートを実施しているものです。

【調査方法】

郵送による無記名アンケート方式

調査時点　平成26年6月5日発送
　　平成26年6月20日投函期限

調査対象　信用保証利用先1,500企業

有効回答数　367 企業（回答率　24.5% ）

※ 当期：平成26年4月～6月実績見込
次期：平成26年7月～9月期予測

【DI値について】

◎回答の各構成比を算出し、「増加」・「好転」等の項目割合から「減少」・「悪化」等の割合を差引いて算出しています

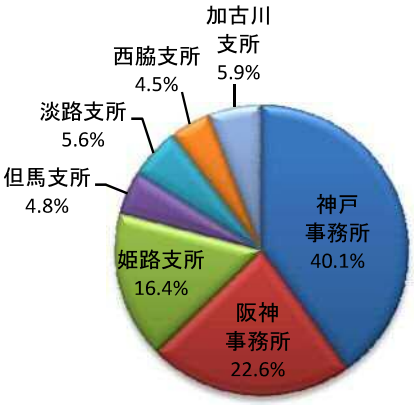
◎表示されている構成比とDI値は、四捨五入の関係で必ずしも一致しません

兵庫県信用保証協会

Ⅰ．貴社の概要について

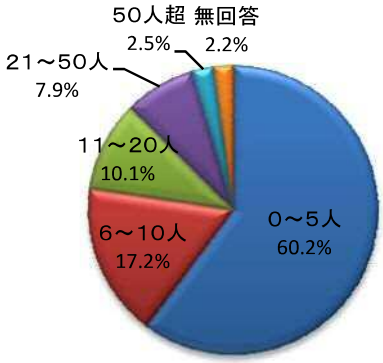
主たる事業所の所在地はどこにありますか。

当協会の部署	回答数	構成比
神戸事務所	142	40.1%
阪神事務所	80	22.6%
姫路支所	58	16.4%
但馬支所	17	4.8%
淡路支所	20	5.6%
西脇支所	16	4.5%
加古川支所	21	5.9%
小計	354	100.0%
地域不明・無回答	13	－
合計	367	－



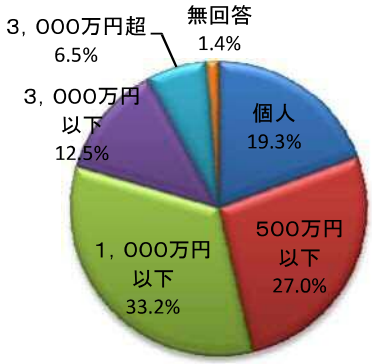
従業員数をご記入ください。

従業員数	回答数	構成比
0～5人	221	60.2%
6～10人	63	17.2%
11～20人	37	10.1%
21～50人	29	7.9%
50人超	9	2.5%
無回答	8	2.2%
合計	367	100.0%



資本金をご記入ください。 ※個人は「0万円」と記入

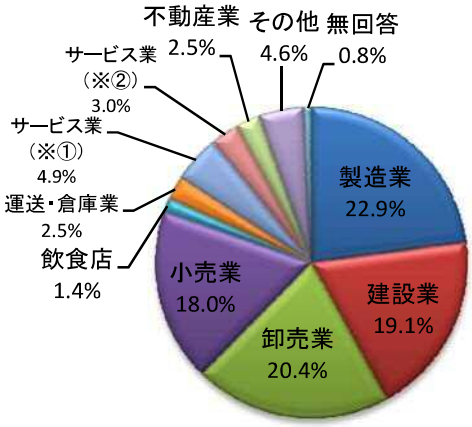
資本金	回答数	構成比
個人	71	19.3%
500万円以下	99	27.0%
1，000万円以下	122	33.2%
3，000万円以下	46	12.5%
3，000万円超	24	6.5%
無回答	5	1.4%
総計	367	100.0%



主要な事業は以下のどの業種に分類できますか。

業種	回答数	構成比
製造業	84	22.9%
建設業	70	19.1%
卸売業	75	20.4%
小売業	66	18.0%
飲食店	5	1.4%
運送・倉庫業	9	2.5%
サービス業（※①）	18	4.9%
サービス業（※②）	11	3.0%
不動産業	9	2.5%
その他	17	4.6%
無回答	3	0.8%
合計	367	100.0%

※① 事業者を対象
※② 一般消費者を対象



Ⅱ．貴社の景況、借入難易感についてお尋ねします。

（1）当期（14年4～6月期）は、前期（14年1～3月期）に比べどのような状況ですか。
（2）次期（14年7～9月期）は、当期（14年4～6月期）に比べどう思いますか。

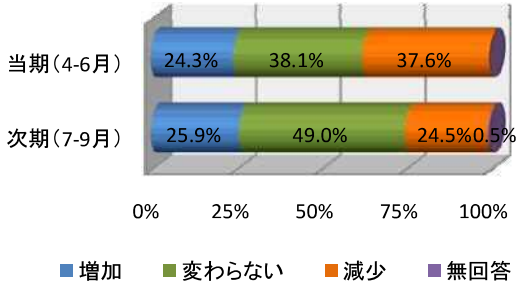
【生産・売上】

当期

選択肢	回答数	構成比
増加した	89	24.3%
変わらない	140	38.1%
減少した	138	37.6%
無回答	0	0.0%
総計	367	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
増加すると思う	95	25.9%
変わらないと思う	180	49.0%
減少すると思う	90	24.5%
無回答	2	0.5%
総計	367	100.0%



生産・売上DI（増加－減少）

調査時期（実績）	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月	2013年4～6月	2013年7～9月	2013年10～12月	2014年1～3月	2014年4～6月	2014年7～9月（見込み）
兵庫県	▲ 20.4	▲ 23.6	▲ 28.5	▲ 22.0	▲ 23.2	▲ 13.1	1.2	▲ 7.3	▲ 13.4	1.4

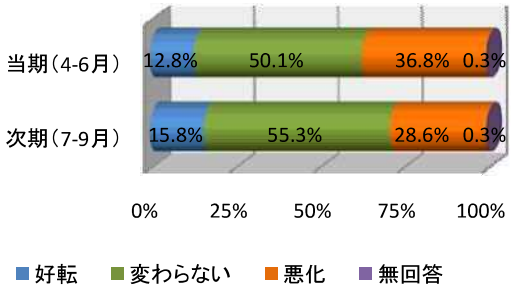
【採算】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	47	12.8%
変わらない	184	50.1%
悪化した	135	36.8%
無回答	1	0.3%
総計	367	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	58	15.8%
変わらないと思う	203	55.3%
悪化すると思う	105	28.6%
無回答	1	0.3%
総計	367	100.0%



採算DI（好転－悪化）

調査時期（実績）	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月	2013年4～6月	2013年7～9月	2013年7～9月	2014年1～3月	2014年4～6月	2014年7～9月（見込み）
兵庫県	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 31.7	▲ 25.4	▲ 31.8	▲ 19.7	▲ 13.0	▲ 19.7	▲ 24.0	▲ 12.8

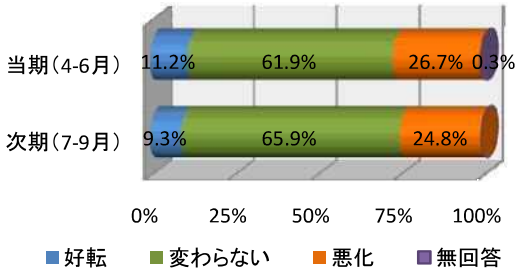
【資金繰り】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	41	11.2%
変わらない	227	61.9%
悪化した	98	26.7%
無回答	1	0.3%
総計	367	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	34	9.3%
変わらないと思う	242	65.9%
悪化すると思う	91	24.8%
無回答	0	0.0%
総計	367	100.0%



資金繰りDI(好転ー悪化)

調査時期(実績)	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月	2013年4～6月	2013年7～9月	2013年10～12月	2014年1～3月	2014年4～6月	2014年7～9月(見込み)
兵庫県	▲ 23.8	▲ 21.6	▲ 25.7	▲ 21.4	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 12.2	▲ 14.6	▲ 15.5	▲ 15.5

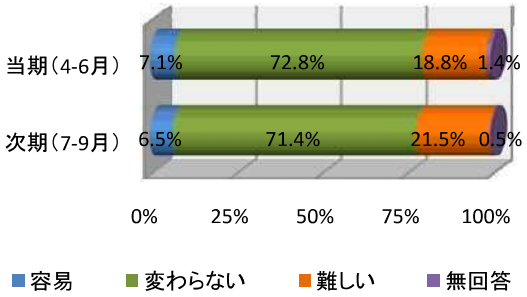
【借入難易感】

当期

選択肢	回答数	構成比
容易になった	26	7.1%
変わらない	267	72.8%
難しくなった	69	18.8%
無回答	5	1.4%
総計	367	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
容易になると思う	24	6.5%
変わらないと思う	262	71.4%
難しくなると思う	79	21.5%
無回答	2	0.5%
総計	367	100.0%



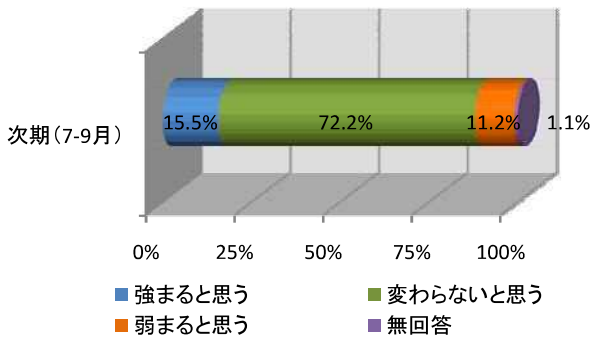
借入難易感DI(容易ー難しい)

調査時期(実績)	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月	2013年4～6月	2013年7～9月	2013年10～12月	2014年1～3月	2014年4～6月	2014年7～9月(見込み)
兵庫県	▲ 16.4	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 14.6	▲ 15.6	▲ 12.5	▲ 9.1	▲ 8.2	▲ 11.7	▲ 15.0

当期(4-6月)では、「生産・売上」DI値が前回調査(1-3月)に比べ悪化していますが、次期(7-9月)では大幅に改善する見込みとなっています。「採算」DI値についても次期での改善が見込まれています。
なお、「資金繰り」DI値については、ほぼ横ばいで推移しています。

【金融機関からの信用保証付要請】
次期

選択肢	回答数	構成比
強まると思う	57	15.5%
変わらないと思う	265	72.2%
弱まると思う	41	11.2%
無回答	4	1.1%
総計	367	100.0%



信用保証付要請DI（強まる－弱まる）

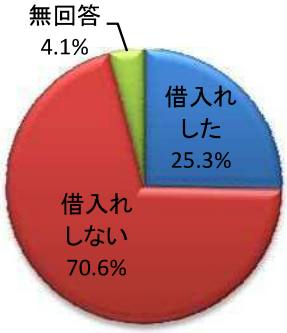
調査時期（見込み）	2012年1～3月（4～6月）	2012年4～6月（7～9月）	2012年7～9月（10～12月）	2012年10～12月（1～3月）	2013年1～3月（4～6月）	2013年4～6月（7～9月）	2013年7～9月（10～12月）	2013年10～12月（1～3月）	2014年1～3月（4～6月）	2014年4～6月（7～9月）
兵庫県	3.1	7.6	7.3	11.9	6.6	8.9	5.6	6.4	5.9	4.4

金融機関からの信用保証付要請は、「強まると思う」とする回答が、「弱まると思う」とする回答を上回っています。

Ⅲ.当期（14年4～6月期）の借入れ（実績見込）についてお尋ねします。

当期に金融機関から借入れをしましたか。
※手形の割引は含めません

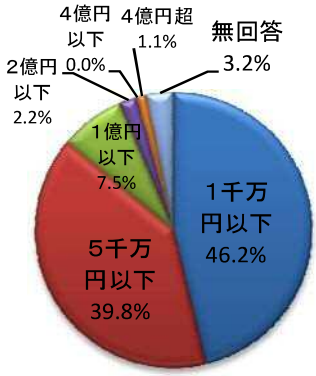
	14年4～6月期		14年1～3月期	13年10～12月期	13年7～9月期	13年4～6月期
選択肢	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
借入れした	93	25.3%	27.6%	32.0%	28.6%	31.0%
借入れしない	259	70.6%	68.5%	64.3%	66.4%	65.8%
無回答	15	4.1%	3.9%	3.7%	5.0%	3.2%
総計	367	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



当期の借入れは、前回調査と比べ、2.3ポイント減少しています。

当期に借入れした総額はいくらですか。

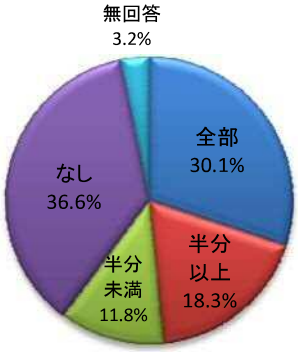
	14年4～6月期		14年1～3月期	13年10～12月期	13年7～9月期	13年4～6月期
借入総額	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
1千万円以下	43	46.2%	50.0%	41.3%	45.6%	47.0%
5千万円以下	37	39.8%	34.7%	43.9%	36.9%	41.7%
1億円以下	7	7.5%	10.2%	5.2%	6.8%	4.3%
2億円以下	2	2.2%	2.0%	1.3%	5.8%	1.7%
4億円以下	0	0.0%	1.0%	0.6%	1.0%	0.0%
4億円超	1	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%	1.7%
無回答	3	3.2%	1.0%	7.7%	3.9%	3.5%
総計	93	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前回調査と比べ、当期の借入総額は「1千万以下」「5千万円以下」の合計が1.3ポイント増加し、「1億円以上」の合計が0.7ポイント減少しています。

当期の借入金額のうち、信用保証付き借入れの割合はどのくらいですか。

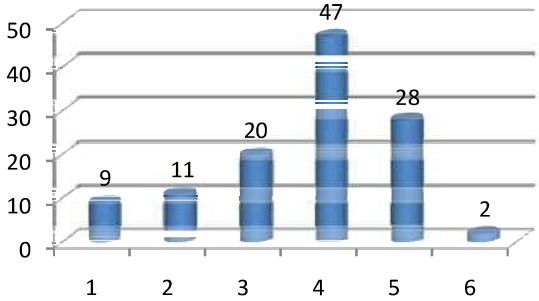
	14年4～6月期		14年1～3月期	13年10～12月期	13年7～9月期	13年4～6月期
選択肢	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	28	30.1%	26.5%	31.0%	28.2%	35.7%
半分以上	17	18.3%	14.3%	5.8%	13.6%	11.3%
半分未満	11	11.8%	10.2%	17.4%	7.8%	6.1%
なし	34	36.6%	48.0%	39.4%	48.5%	47.0%
無回答	3	3.2%	1.0%	6.5%	1.9%	0.0%
総計	93	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前回調査と比べ、信用保証付き借入れの割合は「全部」とする回答が、3.6ポイント増加しています。

上記の信用保証付き借入れの割合が「全部」「半分以上」または「半分未満」と答えた方にお尋ねします。信用保証を利用した理由は何ですか（複数回答）。

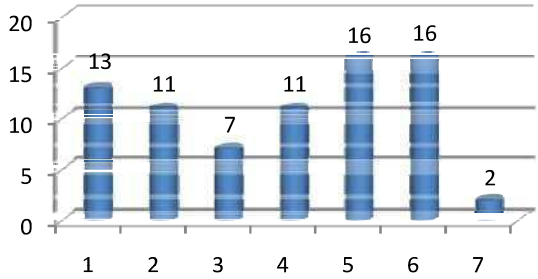
選択肢		回答数
1	自治体の制度融資を利用したため	9
2	担保・保証人不足だったため	11
3	長期資金の調達ができるため	20
4	***金融機関が保証付きを求めたため***	***47***
5	既往の保証付き借入れの借換えのため	28
6	その他	2
総計		117



信用保証を利用した理由は「金融機関が保証付きを求めたため」が一番多く、次いで「既往の保証付き借入れの借換えのため」となっています。

上記の保証付き借入れの割合が「なし」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか（複数回答）。

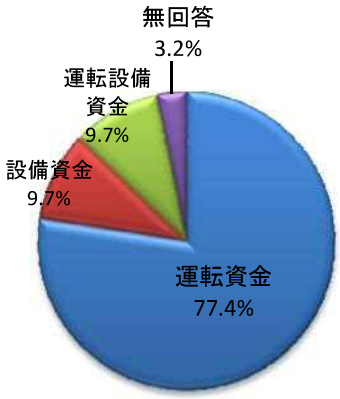
選択肢		回答数
1	保証料の負担を避けるため	13
2	保証を付けない借入れの借換えだったため	11
3	保証枠を既に使っていたため	7
4	すぐに必要な資金であったため	11
5	短期資金であるため	16
6	***金融機関から保証を付けない融資の勧誘を受けたため***	***16***
7	その他	2
総計		76



保証付き借入がない理由は「短期資金であるため」「金融機関から保証を付けない融資の勧誘を受けたため」が一番多く、次いで「保証料の負担を避けるため」となっています。

当期借入金の目的は何ですか。

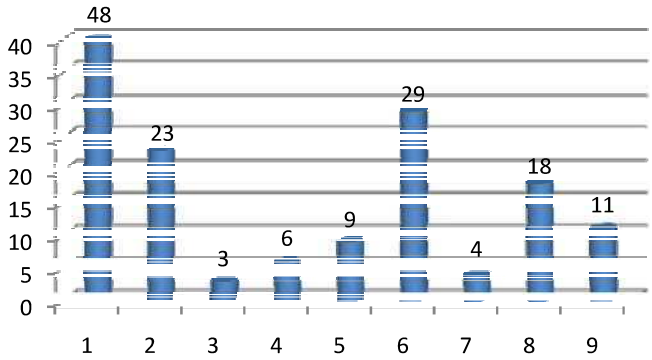
選択肢	回答数	構成比
運転資金	72	77.4%
設備資金	9	9.7%
運転設備資金	9	9.7%
無回答	3	3.2%
総計	93	100.0%



当期借入金の目的は、「運転資金」とする回答が大半を占めています。

上記で「運転資金」「運転設備資金」と答えた方は、運転資金の種類は何ですか（複数回答）。

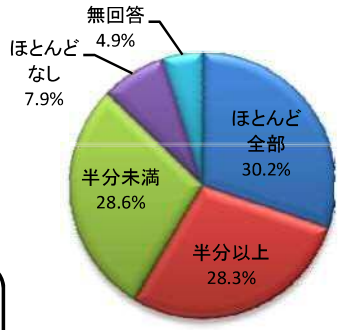
選択肢		回答数
1	***既往借入の借換え***	***48***
2	売上減少・赤字補填	23
3	過剰在庫対応	3
4	支払条件短縮対応	6
5	回収条件悪化対応	9
6	売上増加運転資金	29
7	在庫積み増し	4
8	季節運転資金	18
9	その他	11
総計		151



運転資金の種類は、「既往借入の借換え」が一番多く、次いで「売上増加運転資金」「売上減少・赤字補填」となっています。

Ⅳ．信用保証の利用についてお尋ねします。当期末（14年6月末）借入総残高に占める信用保証利用の割合はどのくらいですか。

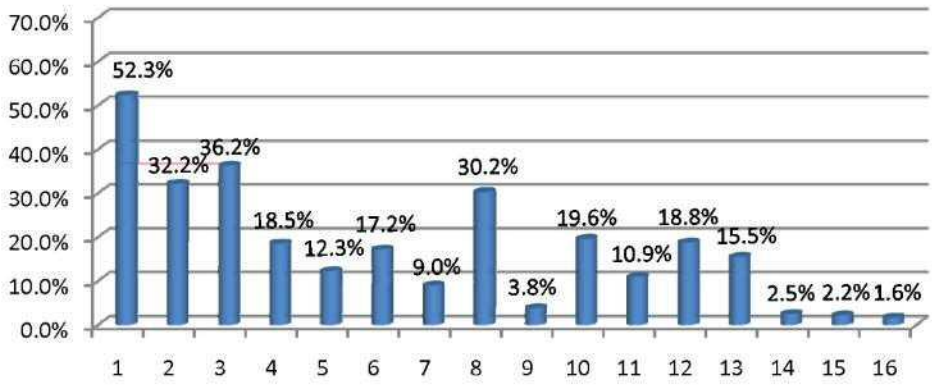
	14年4～6月期		14年1～3月期	13年10～12月期	13年7～9月期	13年4～6月期
選択肢	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
ほとんど全部	111	30.2%	29.0%	32.6%	28.9%	27.0%
半分以上	104	28.3%	27.9%	26.0%	26.9%	28.0%
半分未満	105	28.6%	26.5%	27.8%	26.9%	28.0%
ほとんどなし	29	7.9%	10.1%	9.7%	10.3%	10.0%
無回答	18	4.9%	6.5%	3.9%	6.9%	7.0%
総計	367	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



信用保証利用の割合は、「ほとんど全部」「半分以上」「半分未満」とする割合が、同程度となっています。

Ⅴ．その他（経営上の課題等）について該当する番号をご記入ください（複数回答）。

選択肢		回答数	回答割合	選択肢		回答数	回答割合
1	***売上・受注の減少***	*192*	*52.3%*	9	過剰在庫	14	3.8%
2	***競争激化***	*118*	*32.2%*	10	消費税増税	72	19.6%
3	***コスト高***	*133*	*36.2%*	11	後継者難	40	10.9%
4	業界構造変化	68	18.5%	12	資金調達	69	18.8%
5	取引条件の悪化	45	12.3%	13	借入過多	57	15.5%
6	消費者ニーズの多様化	63	17.2%	14	為替	9	2.5%
7	技術・商品開発	33	9.0%	15	中国・韓国問題	8	2.2%
8	***人材・労働力の確保***	*111*	*30.2%*	16	その他	6	1.6%



経営上の課題については、「売上・受注の減少（52.3%）」、「コスト高（36.2%）」が上位となっています。
次いで、「競争激化」「人材・労働力の確保」「消費税増税」の順となっています。